

【小学校・1年・生活・「たのしいあきいっぱい」】

育成を目指す資質・能力

B2（調査活動）

C1（発表や話し合い）

身近な自然の中から見つけた秋をじっくり観察したり、見つけたことを伝え合ったりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、季節の違いやその特徴に気付く。内容（5）

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】学習支援ソフト、カメラ機能、ホワイトボードソフト

児童が活動の中で「秋を見つけた」「夏と違う」「持って帰りたい」という思いを持ったものを、自分で1人1台端末に記録することで、活動の振り返りや写真を使った表現に活用することができる。教師が、児童の記録を集約したり、児童の活動の様子を端末に記録したりすることで、自然への児童の気付きを把握したり、児童の気付きを授業の中で共有したりすることができる。

学習の流れ

秋について知っていることや夏と秋との違いを話し合う。

校庭で、虫や樹木、草花など秋を感じるものを探し、記録する。カメラ（二人一組）

秋について見つけたものや、気付いたことを発表する。

活動を振り返り、次の活動のめあてを決める。

事例の概要

本事例は、児童が秋の草花や生き物と関わり、夏との違いに気付いたり、秋を見付けたりする場面において、1人1台端末を活用して、児童の気付きを分かりやすくしたり、自分で振り返ったり、友達と共有したりする実践である。

始めに、児童のこれまでの経験をもとに、秋の自然を想起し、夏との違いを話し合った。その際、事前に1人1台端末で撮影した静止画や動画を見せることで、植物の変化だけでなく虫の声にも着目させ、視覚や聴覚を使って違いを話し合った。実際に校庭で秋を探す活動では、視覚や聴覚、触覚、嗅覚など五感を使って取り組むことを伝えた。

児童が秋を感じるものを校庭で探す際に、見つけたものをそのまま持ち帰るだけでなく、1人1台端末のカメラ機能で写真を記録した。二人一組の活動では、一人は端末で写真を撮り、もう一人は写真撮影の補助を行ったが、二人で気付きや思いを話し合いながら活動する様子が見られた。

教室では、記録した静止画をもとに、どのような秋を見つけたのか、それはどこにあったのかなど、画面で示しながら発表し、思いや気付きを共有した。カメラ機能で記録したことをもとに、児童自身が活動を振り返ったり友達の写真を見て更に気付きを深めたりすることに効果的であった。

【小学校・1年・生活・「たのしいあきいっぱい」】

【事例におけるICT活用の場面①】



ICT活用のポイント

【場面①：これまでの経験から秋を想起する】

- ・教師が学校で撮影した夏と秋の写真を分類し、秋探しのコツを見つけた。ホワイトボードソフトを活用し、6枚の写真を夏と秋で個別に分類していく中で、どこに着目して分けたかを考えた。
- ・さらに、夏の動画と秋の動画とを比べて、音の違いに気付くことで、視覚だけでなく聴覚も使って秋を感じることができ、効果的であった。

【事例におけるICT活用の場面②】



【場面②：秋を感じる物を見付ける】

- ・実際に校庭で秋を探す活動では、二人一組で活動し、一人は端末を持ち、もう一人は記録用紙を持ちつつ撮影の補助を行った。
- ・端末を持った児童が写真を撮ることに集中でき、二人で気付きや思いを共有しながら、撮影を行っていた。

【事例におけるICT活用の場面③】



【場面③：見つけた秋を発表する】

- ・教室では、二人で協力しながら画像を貼り付け、校庭で見つけた秋を振り返った。より詳しく説明するために、ホワイトボードソフトを利用して気付いたことを書き込んだ。
- ・大型ディスプレイに映して、見つけたものを発表する際には、伝えたいことを分かりやすく伝えることにつながり、効果的であった。

小学校1年・生活 「たのしいあきいっぱい」 内容（5）（6）

使用機器：大型ディスプレイ

使用したソフトや機能：学習支援ソフト、ホワイトボードソフト、カメラ機能

〈ICT活用のポイント〉

- ① 夏と秋の写真の違いを見つけて、ホワイトボードソフトを使って分類する。
- ② カメラ機能で記録した写真をもとに活動を振り返り、学習支援ソフト、大型ディスプレイを使って、気付いたことや思ったことを発表する。

1 単元の目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

2 単元の評価規準

| 単元の 評価規準 | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------------|---|--|---|--|
| | | 秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。 | 秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。 | 秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。 |
| 小単元 における 評価 規準 | 1 | ① 自分が見付けた葉や木の実の色や形、におい、気温、光、空の色、雲などの秋の自然や物の特徴、様子について気付いている。 | ① 秋の自然と関わった経験や日常生活の中で見付けた秋の変化について、話したり探したり、気付いたことを記録カードに書いたりしている。 | ① 校庭の秋の自然について、自ら進んで関心をもち、関わろうとしている。 |
| | 2 | ② 秋の自然は遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したこと面白さに気付いている。 ③ 遊びには約束やルールがあり、それを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 | ② 比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを工夫して、遊びを楽しんでいる。 | ② 校庭の秋の自然の様子や特徴に感じながら、それらに関わろうとしている。 ③ みんなと遊ぶと楽しいことを実感し、生活を豊かにしようとしている。 |
| | 3 | ④ 夏から秋の変化に気付いている。 | ③ 自分が見付けたり遊んだりした活動を振り返って表現している。 | |

3 単元について

児童はこれまで、春と夏に草花や虫を探す活動を行った。春は校外学習で公園に行き、様々な草花や虫を見つけた。夏は校庭に行き、木の大きさや葉に着目したり、ねこじゃらしを見付けたりして、楽しく活動した。「先生、見付けたよ。」と嬉しそうに報告してくる児童がたくさんいた。

本単元は、学習指導要領の内容（５）「季節の変化と生活」、内容（６）「自然や物を使った遊び」の２つの内容で構成されている。秋は、紅葉、落ち葉、木の実や作物の収穫など、児童が四季の変化に気付き、自然の楽しさや素晴らしさを体感しやすい季節である。実際に校庭に出て、五感を使ってたっぷりと自然と触れ合う体験をすることで、児童に様々な気付きが生まれる。見付けた葉っぱや実で秋の自然を生かした遊びを楽しんだり、試行錯誤しながらおもちゃを創り出したりすることができる。友達と一緒に遊ぶ活動を通して、工夫することの楽しさにも気付く。

指導にあたっては、活動の中における児童の思いや願いを大切に、自然への児童の気付きを取り上げる。その際、具体的な児童の活動を大切にするとともに、それらを教師や児童自身が１人１台端末を使って記録したり、それを見て振り返ったりする活動も取り入れていきたい。

4 指導と評価の計画（６時間）

| 小単元名 | 学習活動 | 評価規準 | 評価方法・備考 |
|--------------------------|---|----------------------------|---|
| 1 あきさがしのけいかくをたてよう (2) | <ul style="list-style-type: none"> 自分が見付けた初秋の様子を話し合う。 校庭の夏と今の様子の写真から秋さがしクイズをして、季節の違いについて考え、秋さがしの計画を立てる。 校庭に出て、虫や樹木、草花を観察し、見付けた秋を写真とカードに記録する。 | 知① 思① 態① | ※１人１台端末の基本操作や使用上の留意点は事前に指導する。 ・行動観察・発言分析 ・発言及び記録カード分析 ・行動観察・発言分析 |
| 2 あきのしぜんをつかってあそぼう (3) | <ul style="list-style-type: none"> 校庭に出て、秋さがしをする。 木の実を拾ったり、草花や木の実などを使って遊んだりする。 秋について見付けたものや、遊んだり作ったりした場面を写真で記録する。 | 知② 態② 思② 知③ 態③ | ・行動観察・発言分析 ・行動観察・発言分析 ・行動観察・発言分析 ・発言及び記録カード分析 ・行動観察・発言分析 |
| 3 なつとあきのちがいをみつけよう (1) | <ul style="list-style-type: none"> 遊んだことや木の実を拾ったことなど、探した秋について、記録カードに書く。 秋の自然の特徴を話し合う。 | 思③ 知④ | ・発言及び観察カードの分析 ・発言及び観察カードの分析 |

5 ICTの効果的な活用について

本単元では、１人１台端末を１年生の実態に合わせて効果的に活用した実践である。

第１時では、場面①にあるように、あらかじめ教師が撮影しておいた写真を使って、１人１台端末の学習支援ソフトで、夏と秋の違いに関するクイズを出題した。その際、動画を視聴させることで、児童は目や耳を使って夏と秋の違いに気付き、次時の秋を探す活動へと結び付いた。

第２時以降は、１人１台端末のカメラ機能を記録や振り返り、発表に活用した。二人一組で活動することで、撮影側が写真撮影に集中できることや（場面②）、伝え合う中で児童の気付きが明確になることなど効果的な場面が見られた。また、撮影した写真をもとに気付きや思いを大型ディスプレイで表現する際（場面③）に、自分の気付きを伝えるだけでなく、友達の気付きにも自分の思いをのせて伝えたり、その後の活動の願いを話し合ったりする場面が自然と見られた。